愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	梶浦 恭子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

小学校や園では、どのような環境が児童や幼児を取り巻き、一日の生活（遊びと教育）が流れ、学びがあるのか。その全体像をつかみ、疑問としたテーマ追究のために仮説を立て実体験（実習、演習）を基盤に学ぶ。問題解決のためにキーワードの意味調べから始まる。設定理由と探る必要性を整理する。一研究方法として具体的な体験事例を取りあげて考察するというように進む。仲間と交流し、新たな視点や工夫を生み出せる、協同で学ぶ面白さを知る。「テーマ設定と研究方法」を見つけ研究・追究を楽しんで行う。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	①個々の進行状況を定期的にプレゼンテーションする。②意見交換（ディスカッション）の時間を持つことで、③互いの知見が広がりグループワークになる。新たな研究の視点やヒントを得て研究の問題解決に役立てる。④実習体験は知見を広げられる。さらに事例を先行研究に沿って積極的に書く。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション（授業説明、注意事項） 「ステップ１：テーマを決める」その１	授業の目的と概要　形式と方法 素朴な疑問こそ大切	□
第2回	「ステップ１：テーマを決める」その２ 資料を徹底して調べる　テーマ決定まで、広げたり絞り込む往復運動を繰り返す	テーマ探しに時間はかかる、よいテーマとは？ ①明確な動機②先行研究がある③問の形式で示すことができる	□
第3回	「ステップ１：テーマを決める」その３ 資料を徹底して調べる　テーマ決定まで、広げたり絞り込む往復運動を繰り返す	よいテーマの作成をするための ①明確な動機②先行研究がある③問の形式表示　理解と探索（探究）へ	□
第4回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その１	１．下調べ：概略的な知識を（キーワードや用語の意味、定義調べて）得る	□
第5回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その２	２．文献検索：先行研究を検索する　テーマの絞り込み ３．文献入手：批判的に検討する文献と主張を裏付ける文献	□
第6回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その３	各自の研究テーマを基に、調べ、入手したい知識（意味、定義）のために、本を探すブラウジングや館内をウロウロして探究する	□
第7回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その４	検索データを確認し、テーマの位置づけを把握する	□
第8回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その５	各自の研究テーマを基に、調べ、入手したい知識（意味、定義）本を探す（ブラウジングやウロウロする）、検索データを確認し、テーマの位置づけや把握状況の交流をする	□
第9回	「ステップ２：調べる」体系的情報の収集　その６	テーマの位置づけ、把握状況の交流をする	□
第10回	作品製作と論文作成確認	各自の研究課題テーマに沿って調査、事例、作品研究を行い面談を交えながらレポートの作成や作品製作を行う。	□
第11回	前期・中間発表Ⅰ　グループワークでテーマの交流、追究	各自が研究課題テーマに沿って行った調査、研究の進歩状況を前期・中間発表をする。	□
第12回	前期・中間発表Ⅰ　テーマの交流、追究	中間発表を終え今後の進め方確認（指導教員との交流）	□

第13回	作品製作もしくは論文の作成成果報告（各個別に行う）	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い小論文の作成や作品製作を行う。	□
第14回	研究発表(研究成果の前期・中間発表Ⅱ)	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い小論文の作成や作品製作、発表の準備を行う。	□
第15回	研究発表(研究成果の前期・中間発表Ⅱ)	これまでの研究の成果を小論文もしくは製作作品で中間発表し、質疑応答に答える。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

研究に必要なキーワード（3つ以上）の意味調べと先行研究論文の要約の準備（3～５の読み解き）は前期に提出する（８月７日までに）（2時間）。研究を深めるための個別の対応は繰り返し行う。前期分の計画遂行は4年生までの四分の一であり、毎時のディスカッションで得られた知見のまとめは直ぐに取りかかる（2時間）。作品であるならば、後期までの仕上げを見通し、文献検索も怠らず行うことは作品の成果が向上するために行動する。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

テーマ設定が一番の課題である。できるまで随時面談する。キーワード、論文検索を毎コマ行う。読み解く課題の確認を授業後にする。提出要約の概要と気づき・感想の添削をすることを繰り返すことでフィードバックとする。なお、保育・教育教材のための作品の場合においても同様であるため、スケジュールの計画案を提示し課題とフィードバックを定期的にする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018子ども発達DP1	幼稚園教育要領、学校指導要領、教育基本法等に示された教育の目的や基本の内容を理解する基礎的な資源能力を身に着けるために、興味関心のある自己課題を探究心を持ち、知識力を身につけ論文作成・記述ができるか
	◇ 2018子ども発達DP2	興味関心のある自己課題を探究するにあたり、自らを高め他者を受容する感覚とその意識を持った生活態度と研究姿勢で、資料検索や収集後の記述ができ説明ができるか
	◇ 2018子ども発達DP3	保育現場で直面する幼児の発達や関係性における多様な問題・課題に対応でき、幼児理解上に立った実践事例の記述報告ができるか

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			15%	85%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

レポート課題　「自分にとってのテーマは何か（20）」「①明確な動機はどこにあったか（10）、②先行研究がいくつあるか（30）、③問の形式で示すことができているか（10）」「調査していること、事例について、作品について（15）」リモート授業参加（15）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	思考を鍛えるレポート論文作成法　［第３版］	978-4766425772
2	大学生のためのレポート・論文術	978-4816350573
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	たねのずかん（みるずかん・かんじるずかん）	978-4834010367
2	身近な植物に発見！種子(タネ)たちの知恵	978-4140402306
3	保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現	978-4907270278
4	幼児のからだとこころを育てる運動遊び―元気に育てちびっ子たち！	978-4764411326

5	幼児のからだを測る・知る―測定の留意点と正しい評価法	978-4764411241